54th GALAXY AWARDS ギャラクシー賞 贈賞式

第54回ギャラクシー賞贈賞式が6月1日、東京・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルボールルームにて開催された。

放送・広告・芸能関係者の入場者数は約600名。特に報道各社の取材は例年の倍以上となり、会場は盛況となった。

審査対象作品は、テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門合計で646本。

当日は各部門の入賞作品を表彰し、「優秀賞」そして「大賞」に輝いた作品を発表した。さらにテレビ部門「個人賞」「特別賞」「フロンティア賞」、ラジオ部門「DJパーソナリティ賞」、また「志賀信夫賞」「マイベストTV賞」の表彰も行った。

司会はRCC横山雄二さんとラジオDJの秀島史香さん

テレビ部門

大賞発表の瞬間

❖テレビ部門・大賞

日本放送協会　**NHKスペシャル「ある文民警察官の死～カンボジアPKO 23年目の告白～」**「このような栄えある賞をいただき、制作チームを代表してありがとうございます。この番組は、文民警察官の山﨑裕人隊長が書かれた報告書を入手したところ、そこには凄いことが書かれていて、これは何とか番組にしなければならないと、全国各地にいた元文民警察官の方に話を聞き、証言として残そうと考えました。最初は、23年間誰にも話してこなかった話を『なんで今さら』と、皆さん取材に逡巡されましたが、それでも亡くなった髙田晴行さんのことを考え、次第に言葉を発してくださいました」（NHK大阪放送局ディレクター・旗手啓介さん）。その後登壇した制作統括の三村忠史さんは「日々の制作に追われるわれわれは、常に未解決の宿題もたくさん抱えています。そのなかの一つを、見事に番組化してくれたと思います」と話した。

❖テレビ部門・優秀賞

鹿児島テレビ放送**「黒声の記憶」**「取材に応じてくださった皆さん、制作に関わったスタッフの皆さん全員に感謝したいと思います。里国隆という人を知り、最初はお伽話のような生き方だなと思いつつ、どんどん興味を持って取材しました」（報道部副部長・川村健大さん）

琉球放送**「Born Again ～画家 正子・R・サマーズの人生～」**「歴史的に貴重な証言をしてくださった、その記録だと思っています。過去の非常に辛い思いを、カメラの前で語ってくださった正子さんに与えられた賞だと思います」（ディレクター・原義和さん）

TBSテレビ　**火曜ドラマ「カルテット」**「坂元裕二さんによるすばらしい脚本、個人賞を受賞された満島ひかりさんを始めとする出演者の皆さま、制作スタッフのみんなが本当に頑張ってくれたおかげだと思っております」（ドラマ制作部プロデューサー・佐野亜裕美さん）

テレビ部門

❖テレビ部門・個人賞　満島ひかり

日本放送協会　**土曜ドラマ「トットてれび」、「シリーズ・江戸川乱歩短編集Ⅱ 妖しい愛の物語」、TBSテレビ　火曜ドラマ「カルテット」の演技**

異なる役柄で鮮烈な演技を見せ、個人賞を受賞した満島ひかりさん。艶やかな着物姿で登壇。「トットてれび」に関しては「スタッフを驚かしてやろうと思って演じていました」。「妖しい愛の物語」は「一つでもセリフを間違えるとNGで大変でしたが、自由に演じられて楽しかったです」。「カルテット」は「松たか子さんと共演するのが夢で、毎回緊張感をもって演じられました」。サプライズとして黒柳徹子さん本人からビデオメッセージが寄せられた。「私の変な若いときを演じてくださって、本当に嬉しいです」。公私とも交流がある満島さんは「徹子さんは宇宙人みたいな方（笑）。そんな徹子さんのように、徹子さんの歳になるまで頑張りたいと思います」と、笑顔で抱負を述べた。

❖テレビ部門・特別賞

「世界の果てまでイッテQ！」（日本テレビ放送網）

今や数少ない「国民的バラエティ」的な存在として放送10年、民放トップの日本テレビの勢いを象徴する番組として特別賞となった。プロデューサーの横田崇さん、総合演出の古立善之さんら制作スタッフ6名が登壇。「今日もスタッフが世界のいろんな国にロケに行っております。みんなでこの賞の喜びを分かち合いたいと思います」（古立さん）。さらにレギュラー出演者の森三中が駆けつけた。大島美幸さんは「凄い賞ですけど、なにか他人事に感じます」。黒沢かずこさんは「スタッフさんが忙しすぎて、どんどん離婚していく」と笑いを誘った。

❖テレビ部門・フロンティア賞

「火花」（YDクリエイション）

又吉直樹の芥川賞受賞作をドラマ化、ネットフリックスで世界190の国と地域に同時配信した後、NHK総合でも放送。ネットと放送の融合が大きな話題となった。「10話分、計500分の撮影は時間的にも非常に大変でしたが、制作スタッフの頑張りのおかげです」（制作を担当したYDクリエイション取締役・山地克明さん）。「これからも日本のコンテンツをグローバルに展開していければと思っております」（同社・宗田明彦さん）

ラジオ部門

❖ラジオ部門・DJパーソナリティ賞　星野源

ニッポン放送**「星野源のオールナイトニッポン」パーソナリティとして**

俳優・歌手・文筆家としても大活躍の星野源さん登場で、会場は大盛り上がり。小学生のころからずっとラジオを聴いて育ってきたという星野さん。「受賞できたのは何よりリスナー、スタッフのおかげです」。また「ラジオは命が救えるメディアです」など、名コメントを聞かせてくれた。司会の横山雄二さんとの壇上でのやりとりも、会場の笑いを誘った。

❖ラジオ部門・大賞

TBSラジオ**「荻上チキ・Session-22」**「昨年荻上クンがDJパーソナリティ賞を受賞し、番組としてもいつか賞を取りたいね、でも今年はないよと話していたので、ビックリしています」（プロデューサー・長谷川裕さん）。壇上にはパーソナリティの荻上チキさん、アシスタントの南部広美さんが駆けつけ、「スタッフ全員で喜びたいと思います」と荻上さん。また南部さんは「昨年は席で大泣きしましたが、今年は壇上で泣かないように我慢しました」と笑顔で話した。

❖ラジオ部門・優秀賞

九州朝日放送**「KBC長浜横丁　居酒屋清子」**「まさか、賞をいただけるとは思いませんでした。実は純粋なきょんちゃんを、清子女将（のキャラクター）に近づけるためにいろいろ工夫をしてきました」（ケービーシーメディアラジオ部・米嵜竜司さん）

日本放送協会　**広島原爆の日　ラジオ特集「あの日、母は少女だった〜被爆の記憶をたどる母と息子の対話〜」**「私たちのというより、被爆者の渡邊弘子さんと、息子の田原彰敏さんの作品だと思っています」（NHK広島放送局アナウンサー・中山果奈さん）

エフエム東京　**ミュージックドキュメント 井上陽水×ロバート キャンベル「言の葉の海に漕ぎ出して」**「陽水さんの持っている日本的な価値観を、青い目の方が評価してくださった。音声表現として上手く行ったと思います」（営業局エグゼクティブプランナー・延江浩さん）

マイベストTV賞

TBSテレビ
火曜ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」

「テレビドラマらしい楽しみがいっぱい詰まった作品にしたいなと思っていましたので、たくさんの方に楽しんでもらえたことは本当に嬉しいです。続編については、僕の頭の中で“妄想”しているところです（笑）」（プロデューサー・那須田淳さん）。主演の星野源さんも再登壇、「この作品に関われて幸せです」。また、プレゼンターはGメンバーの伊藤このみさんが務めた。

志賀信夫賞

西村泰重
（株式会社ジュピターテレコム初代社長）

多チャンネルテレビサービスを提供するMSO（統括運営会社）として、ジュピターテレコム（J:COM）を国内最大のケーブルテレビ会社に育て上げた西村さん。「長年商社勤めをしていた私は、70年代から80年代にかけてニューヨークの郊外に居住していたときに、新しいケーブルメディアが急速に普及していくのを目にしました。その後帰国して新事業開発を任されたのを機に、日本でもケーブルビジネスを成功させてみせようと考えました」。ゲストとして元スカイパーフェクト・コミュニケーションズ社長、現ニッポン放送会長の重村一さんが登壇。「西村さんはケーブル、私はCSと、いわばライバルだったんですが、西村さんはまさに“最初に井戸を掘った人”だと思っております」と、その功績をたたえた。

懇親会

贈賞式後の懇親会は、例年通り同ホテル内の会場で、民放、NHK、制作会社、広告主企業、広告会社、そしてギャラクシー賞の選考・運営に携わった放送批評懇談会のメンバーが集い、受賞者の栄誉を祝福した。来賓として日本放送協会の上田良一会長、日本民間放送連盟の足立久男副会長、日本映像事業協会の澤田隆治名誉会長が登壇し、祝辞を述べた。

日本民間放送連盟副会長・足立久男氏

日本放送協会会長・上田良一氏

日本映像事業協会名誉会長・澤田隆治氏

CM部門

❖CM部門・優秀賞

アマゾンジャパン **Amazonプライム「ライオン篇」** 犬と赤ちゃんの温かいドラマ展開が広く受け入れられた。「まさか賞をいただけるとは思っていませんでした。皆さまに愛されるコマーシャルができてよかったと思います」（アマゾンジャパン・桑田淳さん）

大塚製薬 **カロリーメイト「Mate篇」** 過去と未来の先輩後輩を巧みに描いた感動的な作品。「ここに立てるだけでも信じられないくらいなのに、賞に選んでいただいて、ありがとうございます。本当に嬉しいです」（大塚製薬宣伝部課長・上野隆信さん）

KDDI au **「秋のトビラ・三太郎の出会い篇」** 前回の大賞に続き、今回は単品で受賞。「シリーズの新鮮味を出すことを心がけ、今回は子役の皆さんにも頑張っていただきましたが、評価していただけたのが非常に嬉しいです」（KDDI宣伝部長・矢野絹子さん）

❖CM部門・大賞

静岡新聞　静岡放送　**企業「超ドS 静岡兄弟篇」** 静岡新聞社70周年・静岡放送65周年を記念して、両社を「老兄弟」に擬人化して自虐的かつコミカルに描き、地方メディアの危機感とチャレンジ精神を表現した意欲作が大賞に輝いた。「信じられない気持ちです。放送直後はみなさん度肝を抜かれたという反応でしたが、テーマは『今までの自分を超えろ』、まさにそれに相応しいCMになったと思います。」（社長室経営戦略推進部副部長・奈良岡将英さん）

報道活動部門

❖報道活動部門・大賞

チューリップテレビ
「富山市議会の政務活動費不正をめぐる調査報道」
「この問題は半年間で14人もの市議が辞職する非常に大きなものだったのですが、私たちだけではなく、富山県内のテレビ局や新聞社がいい意味でスクープ競争をして、地域の報道機関が一体となって富山市議会に蔓延していた不正を掘り起こすという形になりました。そういう意味で、私たちだけが賞をいただいていいのかという思いもありますが、私たちの取材が、議会が自ら変わるきっかけになったことを嬉しく思っています」（チューリップテレビ報道制作局記者・砂沢智史さん）

❖報道活動部門・優秀賞

アジアプレス・インターナショナル **「イスラム国（IS）の実態とヤズディ教徒を中心とした住民迫害についての長年の取材報道」**「取材先の現地の方々にはもっと光を当てるべきだと思っております。そして私の伝えたいことを世に出してくれるメディアの方々、このような機会を与えてくださって、ありがとうございました」（ジャーナリスト・玉本英子さん）

長崎ケーブルメディア **「ながさき原爆記録全集〜戦略爆撃調査団編〜」**「番組を作るのにたくさんの方々に協力していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ケーブルテレビが非常に優れたメディアであるということを、取材や放送を通じて痛感しております」（長崎ケーブルメディア放送部ディレクター・吉村陽夫さん）